



# フウセンカズラ (風船葛)



学校法人中部大学 監事 太田明徳



ムクロジ科フウセンカズラ属 *Cardiospermum halicacabum*、つる性の一年草。この植物は一昨年(2021年)の8月末に、現代教育学部 71号館南端の花壇で他の雑草に絡みついているのを見かけた。10月末になっても咲いている。小さな白い花と果実らしき緑の袋の対比が珍しい。調べたら「フウセンカズラ」であった。思い切って袋を割いてみると、3つの部屋に分かれており、艶のある小さな緑色の玉のような種子が一つずつ入っていた。枯れた袋に入っていた種子は黒く変わり、ど

れにも同じ白いハート型の模様がついている。属名のとおり「ハートの種子」である。フウセンカズラは、明るい緑色の葉の蔓草で、日除けにも使われる。花の後に、径2.5cmほどの緑の風船を生じ、種子はハートの模様という、思いがけない形の変化が楽しい植物である。ホオズキのような袋の役割は不明であるが、種子がメラニン様の色素に覆われて耐久性を獲得するまで紫外線や害虫から保護しているのだろう。科名のムクロジ同様に、毒性のあるサポニンなどの物質を含まらしく、それも子孫を残すのに役立っているに違いない。

栽培されているようには見えなかったが、幼児教育学科の千田先生に伺うと、花壇は模擬園庭と呼び、だいぶ前から勝手に生えてい

るとのことであった。図鑑には、中米原産で、熱帯では多年生であるが温帯では一年生草本とある。

英語名では *balloon vine* (*balloon plant*, *love in a puff*) で、和名はその直訳だろう。枝先の3つの花柄より少し下の茎から巻きひげが対になって生じ、支柱に巻き付く。世界中に広がり、日本でも観賞用に栽培されたが、既に野草化しているようである。

参考)

- ・「花の西洋史事典」アリス・M・コーツ、白幡洋三郎、白幡節子訳、八坂書房 2008
- ・「朝日百科」「世界の植物」第8巻、朝日新聞社1997
- ・「世界有用植物事典」堀田満他編、p1138、平凡社1989